

「次代につなぐ『しごと』と『くらし』」プロジェクト 報告書

主 査 委 員	毎熊 浩一	島根大学法文学部准教授	
	江口 貴康	島根大学法文学部准教授	
	木村 雄治	島根県経営者協会 協会コーディネーター	
	日野 堅治	ふるさと島根定住財団地域活動支援課長	
	高尾 雅裕	株式会社山陰中央新報社論説委員長	
	永井 康之	株式会社山陰経済経営研究所経済調査部長	
	南木 憲治	中国労働金庫島根県営業本部	
	足立 傑	全労済島根県本部推進企画課長	
	後藤 幸江	ユースネット島根理事長	
	白石 恵子	県議会議員松江選挙区	
	岩田 浩岳	県議会議員松江選挙区	
	調査・研究協力者	山本 耀子	島根大学大学院人文社会科学研究科
	ヒアリング協力者	陰山 比佳梨	島根大学大学院人文社会科学研究科
事務局	矢野 玲子	島根大学法文学部研究生	
	堀江 良子	島根大学法文学部	
	伊東 雅代	連合総研主任研究員	
	前田 藍	連合総研研究員	
	原田 圭介	連合島根事務局長	
	景山 誠	連合島根副事務局長	
	錦織 泰治	連合島根副事務局長	

島根県は全国に先駆けて人口減少・高齢化を経験している。

人口減少の要因は、出生者が死亡者を下回る「自然減」のほかに、若者の県外流出や、グローバル化の進展による事業再編・工場閉鎖、県外移転による雇用の場の縮小などが考えられる。また、仮に雇用の場が十分にあったとしてもその労働環境は賃金が低いなど決して恵まれているとは言えず、若者にとって将来を描くことは難しい。

このような現状のもと、連合総研と連合島根は研究プロジェクト「次代につなぐ『しごと』と『くらし』プロジェクト」（以下、しまねプロジェクト）を2014年4月に立ち上げた。そして、島根の持続可能性を高めるためには何が必要なのかを、3つの視点「しごと、くらし、ちいき」から考えていくこととした。その上で、とりわけ次世代を担う「若者と女性」に着目し、県内の若者や女性を取り巻く雇用の現状、子育て環境の現状などについて調査しながら、さまざまな課題を抽出していった。

島根の持続可能性を高める重要な要素と考えられる3つの視点「しごと、くらし、ちいき」については幅広く課題をあぶりだすために、アンケート調査を実施することとした。また次世代を担う「女性と若者」については、アンケート調査では抽出しきれない課題をあぶりだすために「女性」についてはヒアリング調査を行い、若者に対しては、「わいわいサークル」というグループをつくりそこでの活動・議論を通して課題抽出を行った。

以上の調査を通して抽出された課題については、労働組合がどのように関わっていけるのか検討し、報告書にまとめることとした。

目 次

はじめに	「次代につなぐ『しごと』と『くらし』」プロジェクトについて
第1章	島根の概況
第2章	しまね生活の特徴 —アンケート結果から—
第3章	比較のなかのしまね生活 —若者と女性を中心に—
第4章	ヒアリングから見えてきた「しまねの女性、生き方・働き方」
第5章	地域社会へのアプローチ